

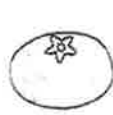







いろいろな式が書いてあります。しかし数字は果物で隠れています。同じ問題の中で、同じ果物は同じ数を隠しています。それぞれの果物はどの数を隠しているのでしょうか。

1  +  = 4




 -  = 5




	




3  +  = 29

 +  = 19




 +  +  = 36



	
	
	




2  +  +  = 21



 +  +  = 9

 +  +  = 13





		

4  +  = 21



 +  +  = 32

 +  = 30



 +  = 26


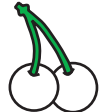
	
	
	
	

いろいろな式が書いてあります。しかし数字は果物で隠れています。同じ問題の中で、同じ果物は同じ数を隠しています。それぞれの果物はどの数を隠しているのでしょうか。

1  +  = 4




 -  = 5


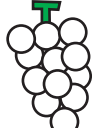

	
2	7


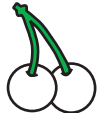
3  +  = 29




 +  = 19


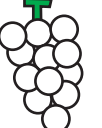

 +  +  = 36

	12
	17
	7

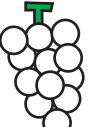

2  +  +  = 21

4  +  = 21




 +  +  = 9





 +  +  = 32

 +  +  = 13

 +  = 30

 +  = 26

		
3	7	11

	19
	11
	7
	14

保護者様用解説

【中級】Lv.27-3 「数あてゲーム」

同じ問題の中では、同じ果物は同じ数、という条件を使って、数の隠れた式を完成させていく問題です。果物を、 x 、 y といった文字に置き換えていただければ、連立方程式であることはすぐにお分かりいただけるかと思います。でも、私たちチャイルドアイズでは、連立方程式の解き方を教えることは致しません。なぜなら、私たちの目指しているのは、先取り学習ではないからです。では、この問題で目指しているものは何か。そんなお話をさせていただきます。

①と②は、すぐに答えを見つけられるのに対して、 $3 \cdot$ と $4 \cdot$ を解く時、子どもたちは、ほとんどの場合、試しに、自分で数を設定して、試行錯誤の上、式に合わせていきます。でも、なかなか、勘だけでは当てることは難しいことです。もちろん、粘り強く、数を探し続ける方法も、解き方の一つですし、そういう取り組みができることも、とても大切なことです。でも、例えば、 $3 \cdot$ で、レモンとさくらんぼに、合わせて29になる数をいろいろ設定した上で、何度もレモン、もも、さくらんぼの式に当てはめているうちに、「レモンとさくらんぼをいろんな数に変えても、ももは必ず、7になるよ！」と気づくお子さまがいます。その声が出た瞬間に私たちはとてもうれしくなります。諦めない試行錯誤の上で、こんなすごいことに気づけるなんて！

おぼろげながら、レモン、もも、さくらんぼの式は、レモンとさくらんぼを足した値と ももの値でできている、ということに自分で気づくこと。この気づきと達成感こそ、私たちが目指していることであり、お子さまが次にジャンプするバネとなると信じているのです。

この問題は中級ですが、実は初級問題でこの問題の前段階といえる問題があります。シーンは果物屋さん。いろいろな果物が、お皿に盛り合わせになって売っています。お皿に盛り合わせになることで、より、一つのかたまりとして、とらえやすくなります。

昔、数学の問題で、方程式の中に、同じ組み合わせになる部分があるとき、そこを、 X や Y とおくと、計算できる問題を解いたご記憶があると思いますが、それが、お皿の盛り合わせで表されているのです。